

宮古市新里地区教育振興運動推進委員会 茂市実践区

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子

日(曜日)	計画した学習時間	実際の学習時間
20(月)	30分	30分
21(火)	30分	30分
22(水)	60分	60分
23(木)	20分	30分
24(金)	35分	35分
ごうけい	150分	155分
25(土)	45分	0分
26(日)	10分	60分
1週間のごうけい時間	215分	215分

25日(土)の夜に11時40分
26日(日)の朝に1時40分
27日(月)の朝に1時40分



めあてを持って継続する『家庭学習の推進』『読書活動の推進』

1 地域の教育課題

茂市小学校では、数年前には家庭学習の習慣が身につけていない児童が少なからず見られた。そのため全県共通課題である「家庭学習の充実」を本校の課題として位置づけ、学校を中心に家庭や地域と連携を図りながら家庭学習の習慣を身につけさせようと考えた。

<課題の裏付けデータ>

H23年度茂市小学校まなびフェスト「決められた時間家庭学習に取り組む児童の割合を80%以上にする」守れた児童30人中25人=83%

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

<子ども>

家庭学習の方法を工夫するとともに、家庭学習支援カード「じがく」を記入し、取組状況を確認する。

<保護者>

望ましい生活習慣を心がけ、可能な限りテレビ視聴時間削減し、家庭学習に取り組む環境づくりを行う。

<先生>

授業を充実させ、授業と連動した家庭学習になるよう課題の出し方を工夫するとともに、よりよい家庭学習について交流を図りながら自主性を伸長する。

<地域>

親子読書、ノーテレビデー等、PTA研修部の活動(教育振興)に祖父母も協力する。

<行政>

実態調査や教員の研修を行い、よりよい家庭学習の習慣づくりを支援する。

○課題解決のための年間の取組

- ①「じがく」の取組と日常の評価活動
- ②家庭学習強化月間とノーテレビデーの取組(年2回)
- ③「スキルタイム」「もっとスキルタイム」の設定
- ④必読図書100選の設定とまなびフェストへの位置づけ
- ⑤朝読書、親子読書並びに図書ボランティアによる読み聞かせ

3 取組の様子

- ① 家庭学習チェック表「じがく」に学習予定と学習時間を記入させ、1週間の累計時間数を確認させた。また、家庭学習ノートを相互に見合い、よさを付箋に書き出させて掲示し、自主性を高めるようにした。(写真左)
- ② 6月と11月に家庭学習強化月間として実施し、①の取り組みを強化するとともに、ノーテレビデーの取り組みを同時期に1週間実施し、家族への協力を依頼した。家族も読書等に取り組む、みんなで家庭学習や読書の習慣づくりに協力してくれた。
- ③ 5時間目の始業前の15分間を「スキルタイム」として設定し、漢字や計算等の基本的な学習内容についてスキルアップを目指した。月1回は、全校児童が一同に会してテストを実施し、個人の成果を認めるようするなどの工夫を行ってきた。
- ④ 必読図書100選を低・中・高学年ごとに指定し、読書への意欲を喚起した。また、読破目標冊数を定め、まなびフェストにも位置づけ、③と関連付けて、保護者に協力を要請したことにより、特に低・中学年で成果が出ている。
- ⑤ 始業前には朝読書を行っている。また、親子読書週間として年に1回、長期休業中には読書をした後の感想文作成にも取り組んでいる。また、年に数回、図書ボランティア「もちもちの木」のみなさんが学校で読み聞かせをして下さっており、年間を通じて読書への意欲向上に努めてきた。(写真右)

4 課題解決を判断する評価の方法

H24 茂市小学校まなびフェスト「家庭学習を毎日取り組む児童の割合を100%にする」1学期末の状況については、守れた児童が88%となっていた。

平成23年度と24年度で文言が違っているが、昨年度より若干の伸長が見られ、取り組みの成果が少しずつ出ていると判断している。

今後は、テレビ視聴の調節を図りながら、自分の暮らしを自分でコントロールする力の伸長に力点を置いて指導したい。また、提出割合もさることながら、内容のより一層の充実を図る必要があることから、課題の出し方についても検討を進める。